

市民公開講座

なぜ化学療法？

千葉大学医学部附属病院

薬剤部 森山恭平

2017/1/15

化学療法とは

化学物質を用いた治療法

がん

感染症

自己
免疫疾患

本日はがんに対する薬物治療、

がん化学療法についてお話しします。



本日の内容

1. がんの治療とは
2. 抗がん薬を用いたがんの治療とは
3. どんな抗がん薬を使うのか
 - ① 細胞障害性抗がん薬
 - ② 分子標的治療薬
 - ③ ホルモン治療薬
 - ④ がん免疫治療薬



がんの治療とは

- 主に3つの治療法があります。



化学療法



手術



放射線

全身療法

局所療法

集学的治療

抗がん薬を用いたがんの治療とは

根治

緩和

延命

症状の緩和、苦痛を取り除く

これまで

がんに対する治療

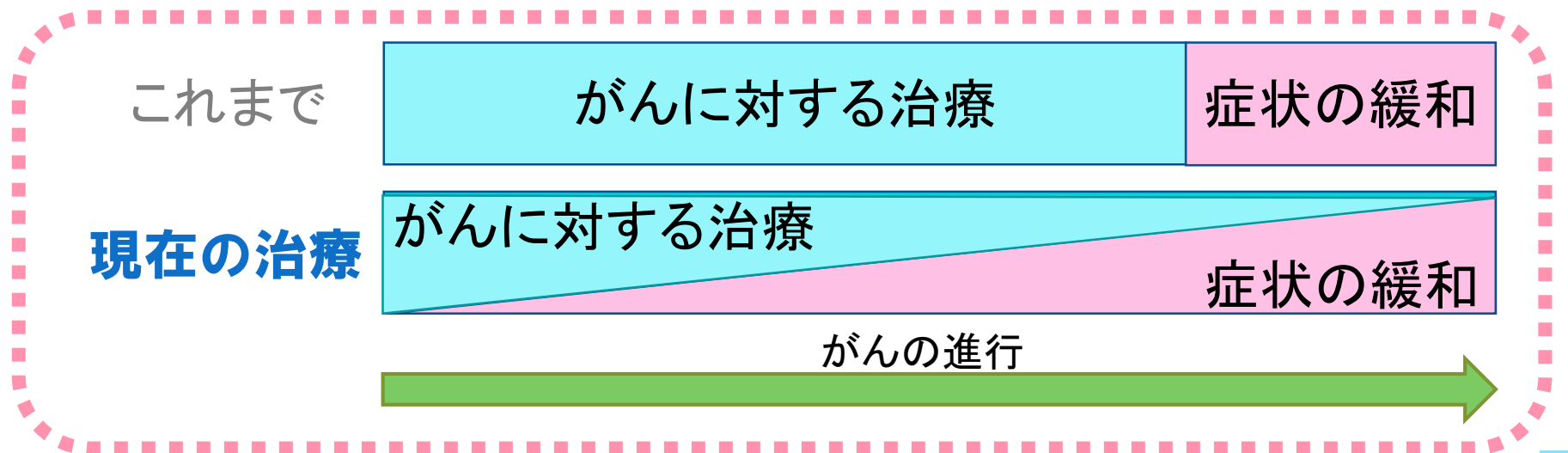
症状の緩和

現在の治療

がんに対する治療

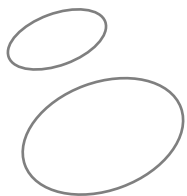
症状の緩和


がんの進行



根治 緩和

抗がん薬を用いたがんの治療とは



 ...がん細胞

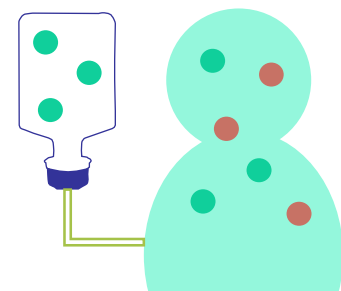
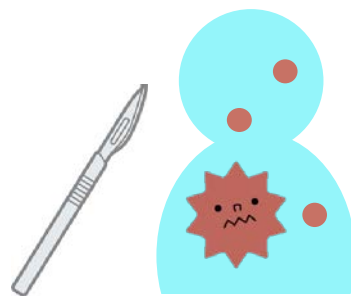
 ...抗がん薬

●術後補助化学療法

手術



化学療法

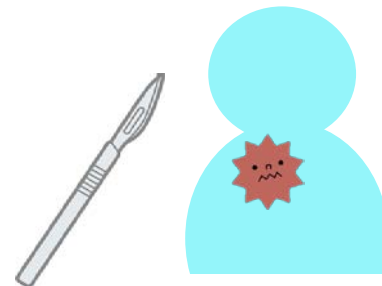
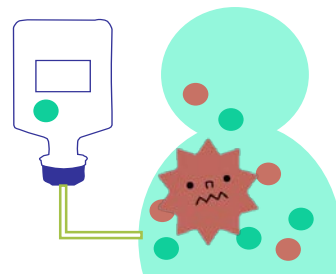


●術前補助化学療法

化学療法



手術



- 痛みやつらさを減らして、元気な時間を長くします
- 体調に合わせた抗がん薬の投与を行います



治療が長くなることもあります。
副作用と上手に付き合しましょう。



どんな抗がん薬を使うのか

抗がん薬 ①細胞障害性抗がん薬

②分子標的治療薬

③ホルモン治療薬

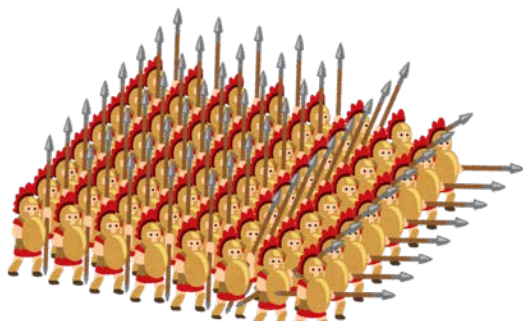
④がん免疫治療薬



①細胞障害性抗がん薬

どのように効くのか

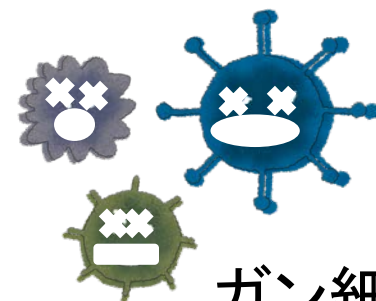
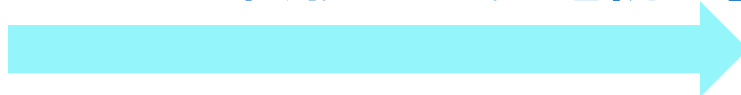
- 活発に増殖するがん細胞を攻撃します。



抗がん薬

主な作用

「がん細胞の増殖を抑え、
転移や再発を防ぐ」



ガン細胞

副作用

「好ましくない薬の作用」



正常細胞

副作用

骨髄抑制

発現時期

投与から7-14日で白血球が減少します。また投与を重ねると赤血球、血小板なども減少します。

注意

貧血や感染・発熱

対応

感染予防



吐き気・嘔吐

発現時期

投与当日～数日間

対応

食事は無理をせず、食べたい物を、食べられる時に食べてください。



副作用

便秘・下痢

発現時期

投与当日～数日間

対応

下痢:

水分補給(脱水に注意)

便秘:

水分補給・運動



口内炎

発現時期

7日前後

対応

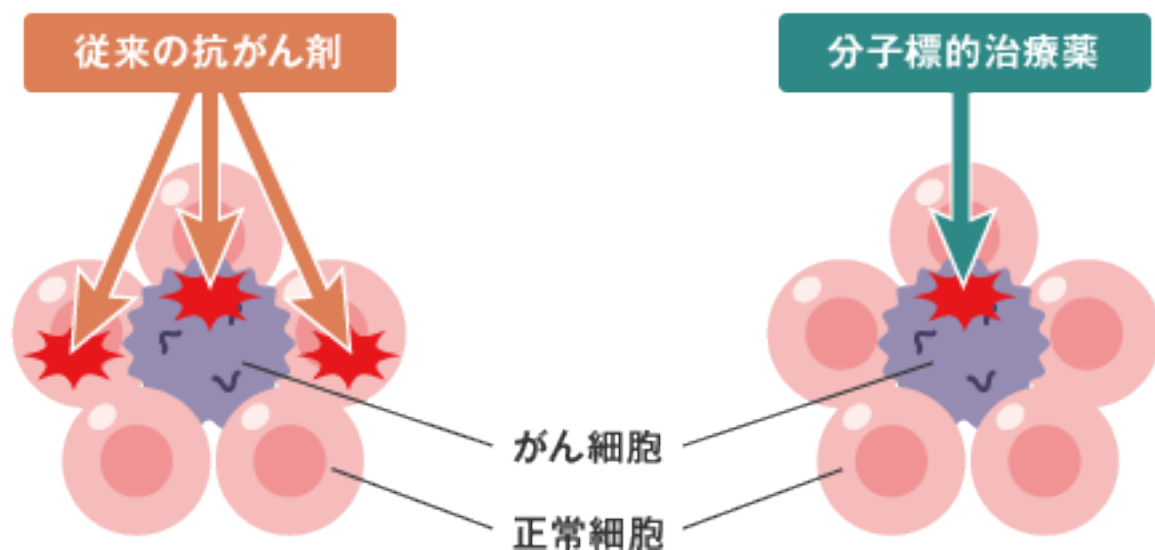
口の中を清潔に保ち、
刺激のある食べ物は避
けましょう。



②分子標的治療薬

どのように効くのか

- がん細胞の増殖に関わる特定の分子を狙い撃ちにする抗がん薬です。



②分子標的治療薬

代表的な副作用

- 殺細胞性抗がん薬に比べ、副作用は少ないですが、皮膚障害、間質性肺炎、高血圧症などの副作用があります。

皮膚症状 ～スキンケアのポイント～



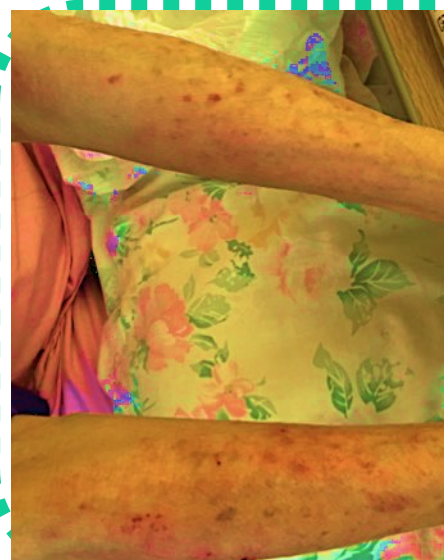
保清



保護



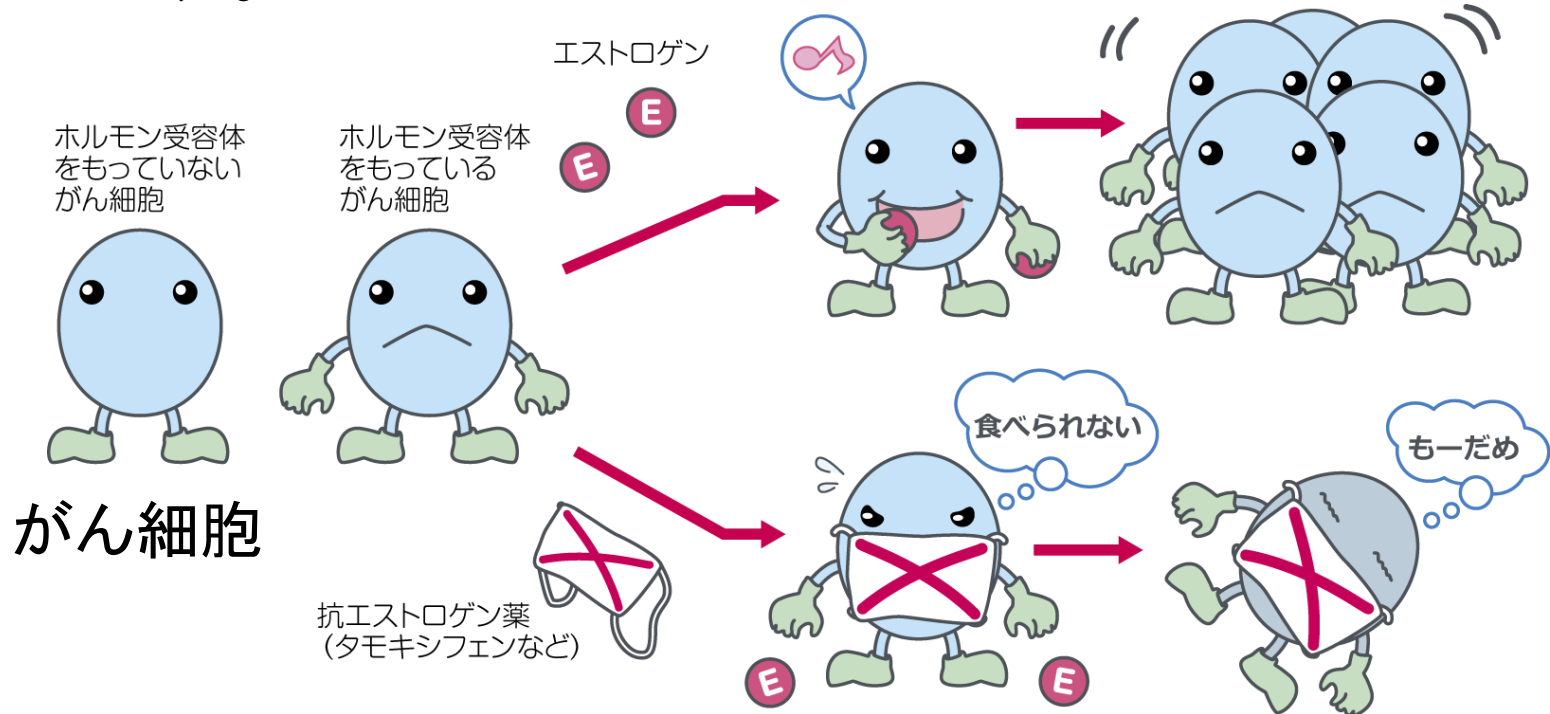
保湿



③ホルモン治療薬

どのように効くのか

- ホルモンを抑えることでがん細胞の増殖を抑えます。



日本乳癌学会ホームページより引用

③ホルモン治療薬

代表的な副作用



ほてり、むくみ、
体重増加、
骨粗鬆症など

アドヒアランス知っていますか？

コンプライアンス(これまで)



「従う」
「受け身」

アドヒアランス(現在)

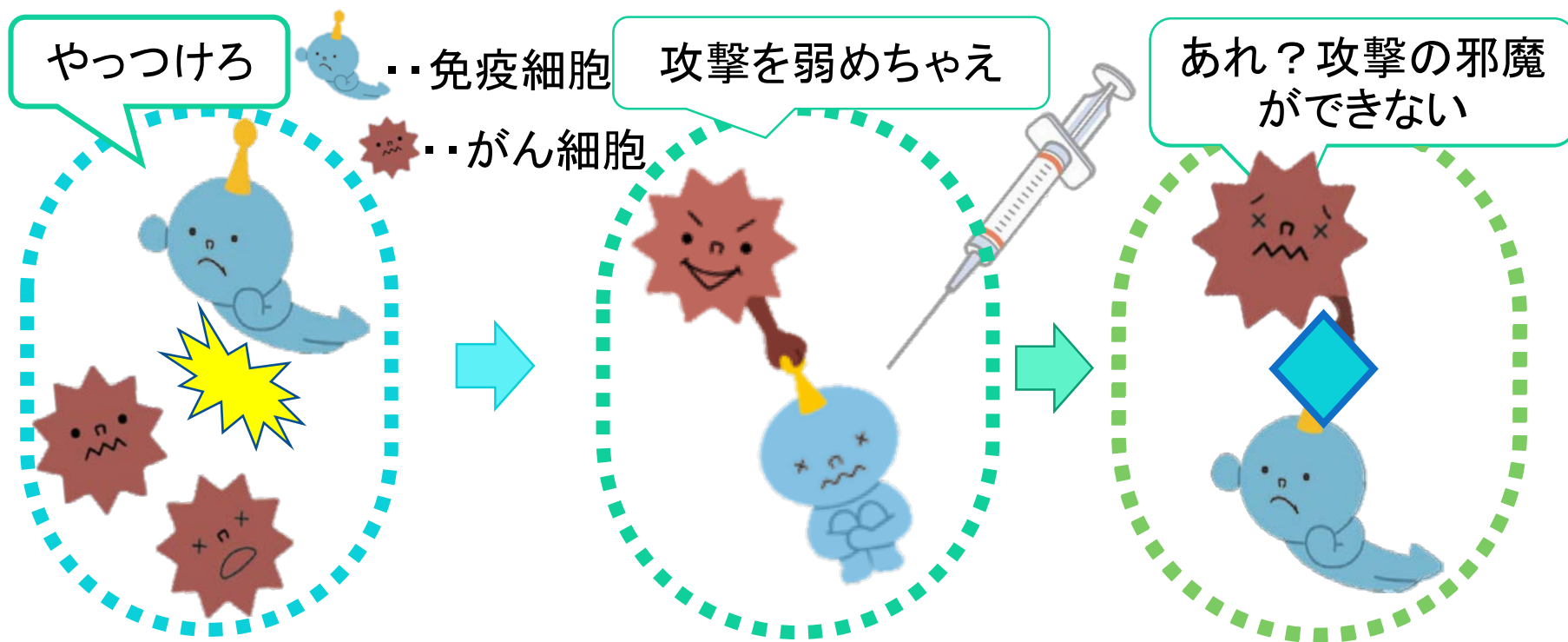


「治療の理解」
「積極的な参加」

④がん免疫治療薬

どのように効くのか

- がん細胞に対する免疫細胞の攻撃力を高めることでがん細胞を攻撃します。



④がん免疫治療薬

代表的な副作用

消化器症状



肝障害



腎障害



内分泌障害



皮膚障害



間質性肺炎



神経障害



未知の副作用



様々な副作用→早期発見が大切！

最適な医療を



東京大学附属病院
HOSPITAL